

委員各位

第386回産業事情検討会のご案内

第386回の産業事情検討会を以下の通り開催致します。

当案内状と共にEメールによるご案内も送信しております。同封の葉書またはFAX、あるいはEメール、下記QRコードのいずれかで出欠の有無をご連絡頂きますようお願い申し上げます。

テーマ：日本社会の展望－ほんとうの定年後 企業経営はどう貢献できるのか

講師：坂本貴志氏

リクルートワークス研究所 研究員・アナリスト

司会：大塚寿広（株）現代経営技術研究所 主任研究員

日時：2023年6月26日(月) 15:00～17:00

開催方式：Zoomによるオンライン開催

今回は坂本貴志氏を講師にお招きします。氏の近著『ほんとうの定年後「小さな仕事」が日本社会を救う』（講談社現代新書）は、漠然と捉えられていた日本人の定年後の働き方の実態を体系的かつ実証的に描き出した画期的な著作です。

同著で氏は“定年後の仕事の実態を丹念に調べていくと浮かび上がるのは「小さな仕事」を通じて豊かな暮らしを手に入れている人々の姿である。さらに明らかになるのは、このような定年後の「小さな仕事」が必要不可欠なものとして人々の日々の暮らしの中に埋め込まれており、かつそれが実際に日本経済を支えているという事実である”と「小さな仕事」に焦点を当て、多くの人々による「小さな仕事」を画期的なイノベーションと共に社会を動かす両輪であると位置づけています。この洞察と世界観は私たちの社会の心豊かな未来像につながるでしょう。

氏を囲んで、ほんとうの定年後の実相と未来展望についてうかがい、企業社会がそれにどう貢献することができるのかを検討します。氏のお話をうかがう中からこれからの人事政策を構想するための多くの手がかりを得ることができると確信しています。ご参加をお勧めします。

I. 日本社会の展望－「小さな仕事」が日本社会を救う

1. 定年後の仕事の事実

年収は300万円以下が大半／生活費は月30万円弱まで低下／稼ぐべきは月60万円から月10万円に／70歳男性就業率45.7%、働くことは「当たり前」／高齢化する企業、60歳管理職はごく少数／多数派を占める非正規とフリーランス／6割が仕事に満足、幸せな定年後の生活 他

2. 労働供給制約時代における経済社会のあり方

II. 対談と相互検討－企業経営はどう貢献できるのか

65歳定年制へどのように移行していくべきなのか／日本の労働生産性は低いのか／ペイフォーパーフォーマンスの徹底が定年後の選択を最適化する／労働市場はどう変わるか、企業は雇用慣行をどう変えるか／就労観の転換が起こる50代にキャリアカウンセリングを 他、参加者自由討論

III. 講師総括－誰かの役に立つ「小さな仕事」に敬意を払う社会へ

<講師紹介>

1985年生まれ。リクルートワークス研究所研究員・アナリスト。一橋大学国際・公共政策大学院公共経済専攻修了。厚生労働省にて社会保障制度の企画立案業務などに従事した後、内閣府で官庁エコノミストとして「経済財政白書」の執筆などを担当。その後三菱総合研究所エコノミストを経て、現職。著書に『統計で考える働き方の未来』（ちくま新書）がある。

現研 (株)現代経営技術研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-17 ICNビル Tel03-3813-7338 Fax03-3813-6964 URL <https://www.gen-ken.co.jp>

